

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	徘徊高齢者家族支援サービス事業	会計	介護保険	事業No.	234	施策順No.	35-043
		事業種別	政策・その他	予算科目	5-2-1-50-3		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進			事業期間	開始	12	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	徘徊のおそれのある高齢者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえぱできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	徘徊のおそれのある高齢者(認知症自立度Ⅱ以上、日常生活自立度A2以下の介護保険認定者)数	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
	意図	介護者の精神的、経済的負担を軽減するとともに、要介護者が快適に安心して暮らせる						
	対象をどう変えるか	事業の利用者数/対象者数×100	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		事業が周知されてきたため、利用者が増えている。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	徘徊のおそれのある高齢者の介護者に対して、位置情報検索システムを利用できる端末機を貸与することで、徘徊高齢者の安全確保と介護者の精神的・経済的負担軽減をし、在宅介護の継続及び向上を図る。 端末機貸与のための初期費用7,000円と交換用バッテリー代2,100円を補助する。 個人負担は毎月の利用料525円(位置情報取得した場合別途情報料)		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	徘徊のおそれのある高齢者の介護者に対して、位置情報検索システムを利用できる端末機を貸与する。	利用者数	10人
23年度実施計画	徘徊のおそれのある高齢者の介護者に対して、位置情報検索システムを利用できる端末機を貸与する。	利用者数	8人

3 事業コスト

事業費	(千円)		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	特定財源	国庫支出金	32	13	32	
		県支出金	16	6	16	地域支援事業交付金の任意事業 国40% 県20% 市20% 1号保険料20% (そ)徘徊高齢者家族支援事業利用者負担金
		起債				
		その他		28		
		一般財源	32	13	32	
		計(A)	80	60	80	
		正規職員所要時間		30		
		臨時職員等所要時間				
		人件費計(B)		107		
		トータルコスト A+B		167		

4 事業に対する市民や議会の意見

事業の継続を希望する声が市民から寄せられている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	安心していきいき暮らせる	施策の成果指標又はムトス指標	安心して暮らせる高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	徘徊のおそれのある高齢者の安全を守り、介護者の精神的・経済的負担を軽減することで安心した暮らしに繋がる。		
	後期に向けた課題	徘徊のおそれのある高齢者とその介護者を継続的に支援していく。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	利用者の経済的負担を軽減することで利用しやすくなってきた。		
	後期に向けた課題	事業内容を分かりやすいものにしていく。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	利用者の経済的負担の軽減を図るため、削減は難しい。		
	後期に向けた課題	利用者の経済的負担の軽減を図るため、削減は難しい。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	利用者には経費の一部を自己負担してもらっているが、無理のない負担額としている。		
	後期に向けた課題	引き続き経費の一部自己負担をしてもらう。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	市が指定する位置情報検索システムの業者が主体となり、徘徊高齢者の介護者に登録利用してもらうことで、必要時位置情報を提供し、徘徊高齢者の安全を守っている。行政は指定業者と業務委託することで位置情報を取得できる端末機を利用者に貸出し、徘徊高齢者の安全を守り、介護者の精神的・経済的負担を軽減している。		
	後期に向けた課題	同様の内容で事業を継続していく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	本事業により、徘徊高齢者の安全を守り、介護者の精神的・経済的負担を軽減してきた。		
	後期に向けた課題	徘徊高齢者とその介護者を継続的に支援していく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------